

3章 技能ごとの調査結果の分析

- (1) 読むこと ～ Reading ～ (根岸委員)・・・40
- (2) 聞くこと ～ Listening ～ (安間委員)・・・52
- (3) 書くこと ～ Writing ～ (森委員)・・・64
- (4) 話すこと ～ Speaking ～ (渡部委員)・・・75

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。

(1) 読むこと ～ Reading ～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ② 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。その際、内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読むことができる。また、事実と意見などを区別して読むことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A...短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力を測定している。

Part B 「概要把握問題」...与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B 「情報検索問題」...与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力（情報検索力）を測定する問題で、上記学習指導要領における②の力を見ている。

Part C ...まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

3. 課題など (◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点)

読むこと

◇短文レベルの語彙・語法問題の中には、正解率が50%を超えるものもある。

◆約75%の生徒がCEFRのA1レベル以下である。

◆英文の概要を理解することに課題がある。

◆英文中から必要な情報を探し出すことに課題がある。

◆まとまった量の英文の要点を理解することに課題がある。

◆生徒質問紙及び教員質問紙の結果では、授業において概要や要点を読み取る活動やその指導を行っているという回答が多いが、調査結果によると、概要や要点を理解することには課題がある。このことから、実際には、生徒がまとまりのある英文を読んで、全体

の趣旨をとらえたり重要な点を把握したりする読み方を身に付けていない可能性がある。

4. 指導改善のポイント

読むこと

○学習者のレベルに合った文章をたくさん読む活動

他の技能の指導は十分に行っていないとしても、「読むこと」の指導は時間をかけて行っているという認識を持っている教員は多いであろう。しかし、本調査においては、これまでの「読むこと」の指導も十分な成果を上げているわけではないことが明らかになった。単文の正確な理解を目指す指導を積み重ねるだけでは、文章全体を理解する力が十分には身に付かないことを示唆している。「読むこと」の課題を解決するためには、まとまりのある文章（例えば、教科書の1課全体など）を一気に読んだ上で概要や要点を読み取らせるなどの指導が必要である。また、教科書の英文レベルが生徒の英語力と比べて高すぎるためにこのような活動を行うことができないのであれば、そもそも生徒のレベルに合わせた教材を選定する必要がある。

○目的を持って読む活動

これまでは、「読むこと」に係る言語活動の主たる目的は「内容を正しく理解する」ことであったかもしれない。しかし、現実のコミュニケーションの場面においては、何らかの目的があって読むことが通常である。「読むこと」の目的が、読み方、読むべきテキスト、読むべき箇所などを規定してくる。「読むこと」の指導に用いる教材をどのような目的で読むのかという視点で見直し、それにふさわしい読み方の指導を行うことが大切である。多様な目的とそれを達成する多様な読み方を習得するためには、それに応じた多様な英文を用いる必要がある。

○真の概要把握・要点理解のための活動

生徒質問紙 No. 11-(3)の「英語を読んで、(一文一文ではなく全体の) 概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」という問いに対して、公立学校全体で 73.8% (選択肢①と②の合計)、リーディングとのクロス集計データで A1 レベルだけに絞ったデータを見ても 69.4% (選択肢①と②の合計) がそうした活動を行っているという回答している。また、教員質問紙 No. 1-(2)の「英語を読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする活動を行っていますか」という問いに対して、公立学校全体で 89.2% (選択肢①と②の合計) がそうした活動を行っているという回答している。

このような回答にもかかわらず、概要把握や要点理解には課題があるという結果となっている。この原因としては、生徒や教員の持つ概要や要点を理解することのイメージが、本調査における概要や要点を理解することが意味するものと異なっている可能性があると考えられる。つまり、生徒や教員は「概要・要点」を単に読んだ文章のトピック程度のものととらえている可能性があるが、本調査で求められていたのは、まとまりのある英文を読んで、全体の趣旨をとらえたり重要な点を把握したりする読み方である。こうしたことから、教科書の1セクションや1課をまとめて読み、全体としてどのようなことが書かれているかを読み取ったり、英文の中で書き手が一番伝えたい内容は何かを議論したりするような活動が求められるであろう。こうした活動は、課題の発見や解決に向けた生徒の主体的な学びにつながるものでもある。

また、教員質問紙 No. 1-(8)の「事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりするよう指導していますか」との問いに対して、「よくしている」(選択肢①)が9.6%、「どちらかといえば、している」(選択肢②)が25.9%と少数であるが、No. 1-(9)の「速読したり精読したりするなど、目的に応じた読み方をする活動をしていますか」との問いに対しては、半数以上は「している」と回答している(選択肢①と②の合計59.5%)。事実と意見などを区別する読み方をするには、両者を含んだある程度まとまった英文を一気に読んだ上で行わなければならないことを考えると、そのような指導が十分にはなされていないと考えられる。No. 1-(9)の問いに対する結果からは、精読だけでなく、速読を意識した指導がある程度行われていると予想されるが、概要把握問題や要点理解問題の結果からすると、生徒が目的に応じた読み方を身に付けているとは言えない。その意味では、予習などにおいて読んできた英文の内容を確認する授業ではなく、どのような目的を持って読むのか、また、その目的を達成するために、どのような部分をどのように読めばいいのかを考えさせるような読むプロセスに係った指導も必要であると考えられる。

さらに、教員質問紙の結果と生徒の実際の調査結果が一致していないことは、日頃の評価において、生徒のリーディング力の実態が的確に把握されていないこととも関係があるように思われる。実際、定期考査のリーディングに関する問題では、教科書中の既習の英文が用いられている場合も多い。しかしながら、このような方法では、指導目標に掲げたリーディング力が本当に身に付いているのかどうかを測ることは困難である。「読むこと」の指導においては、「指導目標の設定(身に付けるべき読む力の明確化)」と「評価方法の選択」との整合性が図られる必要がある。

5. 問題詳細分析

Part B Question 17

■この設問で問うている力

- ① 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。

With plenty of places to practice, climbing is popular in Scotland. In the late nineteenth century, Sir Hugh Munro realized that Scotland had lots of mountains higher than 3,000 feet which were perfect for climbing. He climbed them all and made a list as he went along, eventually deciding that there were 236 separate mountains. They became known as the "Munros" in his honor. Since his death, 48 more Munros have been identified. The Scottish Mountaineering Club keeps a record of everyone who has climbed them all, with this select group being known as Munroists.

17. What is this passage mainly about?

- [A] How some mountains came to be called the Munros.
[B] How to climb all of the Munros.
[C] The best technique for identifying mountains.
[D] The most popular sport in the mountains of Scotland.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する。

■解答類型と反応率

Q. 17

選択肢	反応率	正解
A	31.7%	◎
B	24.9%	
C	21.6%	
D	20.7%	
無解答	1.2%	

■分析結果と課題

100語程度の英文を読んで、その概要を理解する設問である。このような設問では、一文一文を日本語に訳せたとしても、必ずしも正解できるわけではない。文章中の“climbed them all”や“have been identified”といった部分に目をとられると誤答の選択肢である[B]や[C]を選んでしまう。正解の選択肢[A]を選んだ生徒は31.7%にとどまり、全体の流れから、文章の趣旨がスコットランドの山々が“Munros”と呼ばれるようになった経緯であることを把握できない生徒が多かったことがわかる。

■学習指導に当たって

教科書の英文一文一文を理解するだけでなく、文章全体やパラグラフ全体として何を言っているのかを常に問うことが重要である。その際、書き手の意向をイメージしながら文章全体を通して何度も黙読するといった活動を取り入れることが考えられる。そうすることで、本設問における英文であれば、文章が時系列で構成され、最終的にスコットランドの山々が“Munros”と呼ばれるようになった経緯を説明していることがわかるようになる。

また、文章中のある特定の文の意味を理解することに困難が生じた場合でも、文章全体の意味や構成から問題解決をさせるという指導も効果的である。予習として知らない単語を必ず辞書で引いてくるのではなく、授業で初見の英文を読み、文脈から当該文の意味を推測するという活動も重要である。例えば、本設問の英文7行目の“eventually”という単語を知らなかったとしよう。設問文は、Munro氏が3,000フィート以上の山にすべて登り、そのリストを作って236の山があると結論づけたという内容である。この流れがわかれば、そもそも“eventually”の意味がわからなくても概要は理解できるが、文脈からも「その結果」といった意味であることが推測できる。

未知語の推測については、教員質問紙No.1-(11)の「未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら、聞いたり読んだりするように指導していますか」との問いに対して、68.6%が「よくしている」(選択肢①)又は「どちらかといえば、している」(選択肢②)と肯定的に回答している。ある程度は未知語の推測といった活動が行われていることを示唆するが、これが単発の活動にとどまっている場合は実際の読むことの中で生かされる技術とはならないであろう。その意味では、まとまった長さの英文を読ませることと併せて、未知語の推測を日常的な活動として取り入れることが求められる。

Part B Question 21

■この設問で問うている力

② 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。


THE KING'S HOTEL
HOTEL SAFETY- IMPORTANT INFORMATION

Welcome to The King's Hotel. We hope you enjoy your stay. Please take some time to read the information carefully in order to be prepared for an emergency.

EMERGENCY INSTRUCTIONS

Fire Alarm
The alarm sounds when a fire occurs in the hotel.
WHEN THE ALARM SOUNDS, YOU MUST FOLLOW THE EVACUATION PROCEDURE BELOW:

Evacuation Procedure

1. Make your way out of your room immediately, without stopping to gather your possessions.
2. Make sure you close the door of your room behind you.
3. Find the quickest way to leave the hotel using the exit sign.
4. **DO NOT USE THE ELEVATORS AT ANYTIME DURING AN EMERGENCY.**
5. After leaving the hotel, go to the meeting point in the garden area outside the restaurant, where hotel staff will give you further instructions. Keep the area in front of the hotel's main entrance clear for use by the emergency services.

MEDICAL ASSISTANCE

- ◆ If you need emergency medical assistance, dial 0199 at anytime. Your call will be connected to St. Catherine's Hospital's emergency service.
- ◆ If you need medical advice while staying at the hotel, call the hotel clinic (dial 77), which is open daily, from 10 am to 4 pm.
- ◆ You can get free advice from a medical consultant at the ABC Drugstore located next to St. Peter's Hospital, opposite the hotel, during the hospital's opening hours (9 am to 4 pm). The store supplies everyday goods 24 hours a day.

Useful Phone Numbers:

- ◆ 10 - Hotel front
- ◆ 77 - Hotel clinic
- ◆ 0199 - St. Catherine's Hospital's emergency service
- ◆ 555-4490 - ABC Drugstore medical consultant
- ◆ 555-1100 - St. Peter's Hospital



21. If the fire alarm sounds while you are in your room, what should you do?

- [A] Gather your things before going out of the room.
- [B] Go to the meeting point in front of the main entrance.
- [C] Leave the hotel without using the elevators.
- [D] Read the safety information carefully.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す。

■解答類型と反応率

Q. 21

選択肢	反応率	正解
A	20.3%	
B	28.8%	
C	33.1%	◎
D	14.2%	
無解答	3.6%	

■分析結果と課題

この設問では、どこかにある 1 つの情報を探し出せばよいわけではない。英文中に“WHEN THE ALARM SOUNDS, YOU MUST FOLLOW THE EVACUATION PROCEDURE BELOW:” とあることから、警報が鳴ったときの避難手順については、その下の部分を読まなければならないことがわかる。誤答である選択肢 [B] を選択した生徒が 28.8%に上るが、英文中に“go to the meeting point”と書かれているものの、その場所は“in the garden area”であり、“main entrance”の前は空けておかなければならないことを理解する必要がある。正解の選択肢 [C] を選択した生徒は 33.1%にとどまっており、本設問のように、複数の情報を統合して必要な情報を得ることに課題があると言える。

■学習指導に当たって

一文一文に含まれる事実を個別に読み取らせるだけでなく、例えば、文章全体から自分に必要な特定の情報を引き出すなど、目的を持って主体的に読む活動を取り入れることが重要である。あわせて、情報を様々に組み合わせることで課題解決をするタスクの導入が必要である。例えば、インターネットで映画の情報ページを読むのであれば、映画の内容に関する説明を読んでどの映画を見たいか考え、その映画が上映されている映画館、上映時間、料金などの情報を総合的に勘案した上で、最終的にどの映画を選ぶか決定する、というようなタスクである。こうした情報の統合を行う活動では、最初から高度な統合タスクを用いるのではなく、単一の情報検索から始め、単純な統合タスクに移行した後、徐々

に統合の度合いを高度化していくというプロセスが大切である。

Part C Question 34

■この設問で問うている力

- ① 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ② 説明や物語などを読んで、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。その際、内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読むことができる。また、事実と意見などを区別して読むことができる。

Since the end of the 20th century, many countries have experienced a growth in the number of “clone towns.” Clone towns are ones in which the small, independent businesses that made up the town center have been replaced with chain stores and restaurants, making towns in different areas look similar to one another.

Chain stores have the marketing power to offer consumers a wide variety of mass-market consumer goods in large quantities at low prices, operating in a way that suits the busy lifestyles of today’s consumers. Although these stores are run more efficiently by stocking standard selections, they are often described as lacking soul and atmosphere. Furthermore, such stores can affect communities economically, because central head offices in another city exercise control over the stores, their employees, and their finances.

A large number of local shops have closed, finding themselves unable to compete with the chain stores. However, many people have realized too late that they miss the traditional shops with their long histories that used to provide their neighborhoods with individual character.

Although chain stores will probably be the face of town centers for some time to come, even these highly-organized stores might suffer in a tough economic climate. Nowadays shopping by the Internet is becoming increasingly popular because it offers lower prices, more convenience, and a wider variety of goods.

The clone town was a good match for the lives people led in the 1980s and 1990s, however, their success left town centers too similar and not exciting enough, making them weak against the threat of Internet shopping. Town centers will need to further adapt to attract shoppers back from the Internet.

One interesting development followed the closing down of one of the largest chains of stores in the UK. More than 800 branches disappeared when the company finally admitted defeat in the fight against Internet stores selling the same products at lower prices. There was one positive sign for shoppers in town centers, though. In the town of Dorchester, the former manager of one of the chain’s stores decided to turn independent and keep the shop going under a new name. By selling more local products along with everyday items found in chain stores, and fewer things that shoppers can buy cheaper on the Internet, this store is fitting community needs by mixing the best parts of modern chain and local stores.

34. What is the main characteristic of clone towns?

- [A] They contain very few places to shop or eat.
- [B] They grow in size extremely quickly.
- [C] They have many of the same stores and restaurants.
- [D] They protect traditional shopping areas.

35. According to the passage, why are chain stores good for consumers?
- [A] They can produce big marketing campaigns.
 - [B] They have a long history of meeting local needs.
 - [C] They have a nice atmosphere similar to independent stores.
 - [D] They offer a variety of goods at reasonable prices.
36. According to the passage, many people realize that traditional stores _____.
- [A] had their own unique identity and character
 - [B] needed to expand their businesses to succeed
 - [C] should compete with chain stores
 - [D] should provide better services for the neighborhood
37. What is the biggest problem facing chain stores at the present time?
- [A] Competition with other chain stores.
 - [B] Economic problems that affect the country.
 - [C] Shoppers who prefer local stores.
 - [D] The growing market of Internet shopping.
38. How has a former manager of a chain store been able to succeed?
- [A] By buying goods on the Internet and selling them.
 - [B] By combining the best parts of chain and local stores.
 - [C] By forcing a large chain of stores to close.
 - [D] By selling local shops' goods on the Internet.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■ 出題の趣旨・形式

まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る。

■解答類型と反応率

Q. 34

選択肢	反応率	正解
A	18.3%	
B	23.3%	
C	35.7%	◎
D	17.6%	
無解答	5.1%	

Q. 36

選択肢	反応率	正解
A	25.0%	◎
B	22.4%	
C	22.6%	
D	24.6%	
無解答	5.4%	

■分析結果と課題

Q. 34～38 の設問は、やや長めのまとまりのある文章に関するものである。これらの設問の正解率は 25～35%程度で、いずれも高くはない。

Q. 34 の正解率は 35.7%であるが、この設問に正解するためには、“Clone towns are ones in which the small, independent businesses that made up the town center have been replaced with chain stores and restaurants ...” の部分を読み取らなければならない。この英文のように、1 文の中に複数の関係詞が用いられているなどの複雑な構造になっていると、その詳細な理解には困難をきたしている生徒が多いと言える。

Q. 36 の正解率は 25.0%で、どの選択肢もほぼ 4 分の 1 ずつ選択されていることから、生徒の多くは当て推量で解答した可能性がある。本設問の文章では、いくつかの種類のお店が比較されている。1 つは第 1 段落に出てくる “the small, independent businesses” とされるもので、これは第 3 段落以降では “local shops” や “traditional shops” と言い換えられて文章が展開している。これと対比されているのが第 1 段落で初出の “chain stores” と第 4 段落以降で説明されている “Internet stores” という 2 つの種類のお店で、それぞれ次のように言い換えられている。

- chain stores (第 1 段落) → these stores (第 2 段落) → such stores (第 2 段落) → these highly-organized stores (第 4 段落)
- shopping by the Internet (第 4 段落) → Internet stores (第 6 段落)

本設問で正解を得るには、上記の関係性を読み取りながら文章全体を理解した上で、第 3 段落の “... many people have realized too late that they miss the traditional shops with their long histories that used to provide their neighborhoods with individual character.” という文を正確に読み取る必要がある。このように、文章全体の理解と同時に文レベルの詳細理解を求めるような問題には多くの生徒が対応できていないと言えるだろう。

■学習指導に当たって

このパートの正解率が低いことから明らかなように、全般的に「読むこと」における理解の能力の向上がなされなければならない。その際、読む目的を明確に設定した上で、次の例のように、その目的に即した活動を行う必要がある。

〈活動例〉

【英文全体の概要把握】

- ・英文全体を速読し、英文のタイトルを考える。生徒の状況によっては、与えられたいくつかのタイトルの中から最も適切なものを選ぶという方法もある。

【各段落の概要把握】

- ・各段落を読んでトピック・センテンスを見つけ、その内容を確認する。
- ・再度各段落を読んで、トピック・センテンスとそれ以外の文がどのような関係にあるのかを考える。
- ・概要を問う質問やサマリー・チャートなどを利用して、各段落の概要をとらえる。

【詳細理解】

- ・英文の中から、質問に解答するために必要な情報を含む部分を特定する。
- ・当該部分の言い換えとして、与えられたものの中から最も適切な英文を選ぶ。

ただし、このような指導を行う場合でも、生徒のレベルに合った文章を用いて行うことが前提となる。例えば、文脈から未知語を推測するための条件について、Nation (2001)¹は、テキスト中の大部分（総語数の 95%）の語が既知語であり、未知語は 20 語に 1 語の割合であることとしている。それ以上の単語が生徒の未知語となっているような困難度の高すぎる文章では、文脈から未知語の意味を推察したりフラストレーションなく読んだりすることができないとされており、上記のような活動を行うのは困難であると考えられる。

(以上)

¹ Nation, I. S. P. (2001). Learning Vocabulary in Another Language. Cambridge University Press.

(2) 聞くこと ～ Listening ～

1. 学習指導要領における領域・内容

標準的な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話された場合、次のことができる。

- ① 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ② 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。
- ③ 事物と意見などを区別して聞くことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A … 日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

Part B … 一定以上の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力を測定する問題で、上記学習指導要領における①、②及び③の力を見ている。

3. 課題など（◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点）

聞くこと

- ◇聞き取る英文中に設問で問われている語句が直接示されている場合は、それを認識して正しく理解することができる。
- ◆聞き取る英文中の表現とは別の表現が設問で使われている場合は、両者の関連付けに困難がある。
- ◆談話の要点や全体の流れ（誰が、どの立場で、どのような意図で、何を話したか）をとらえる力が不足しているため、断片的な理解にとどまっている。

4. 指導改善のポイント

聞くこと

- 語句や文の表面的な聞き取りだけで終わらず、聞き取った内容の概要や要点を自分の言葉で言い換えながら話したり書いたりするアウトプット活動を、日頃から継続的に行う必要がある。これにより、英語表現が「与えられたもの」ではなく「自分で使えるもの」になるとともに、聞き取る際も余裕を持つて的確に判断できるようになる。
- リーディングと異なり、リスニングにおいては全ての情報を一時的に記憶にとどめなくてはならない。このため、効率的な言語処理が行われなければ、直前に聞いたものだけが記憶に残る状態を起しやす。これを防ぐためには、キーワードや要点を聞き取り、それらをつないで話の骨子を作るようなアウトライン・プロセシングの練習を行うと効果的である。

5. 問題詳細分析

Part A Question 16

■この設問で問うている力

- ① 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ② 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。

あなたの家にアメリカ人の学生がホームステイしていて、あなたとは違う学校へ通っています。その学生が駅からあなたに電話をかけてきて何かを頼んでいます。彼女の話聞きなさい。



<スクリプト> [F: Female]

F: Can you meet me somewhere and bring me the train pass? How about halfway between school and our apartment building? The big bridge, the one not too far from the train station, would be a good place to meet.

16. Where will you meet the American student to give her the train pass?

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する。

■解答類型と反応率

Q. 16

選択肢	反応率	正解
A	34.1%	
B	9.9%	
C	13.7%	
D	41.3%	◎
無解答	1.1%	

■分析結果と課題

この項目は能力の高い生徒と低い生徒を識別する力が強く、正解の選択肢 [D]（橋のイラスト）は能力レベルの高い生徒ほど正しく選択されている。中位から下位にかけての生徒では、誤答の選択肢 [A]（駅のイラスト）に惹かれる傾向がやや見られる。これは、最後の文に含まれている“the one not too far from the train station”という表現が一時記憶に残ったものと思われる。このような情報が含まれていても重要事項が保持されるよう、効率的に情報整理をする訓練が求められる。

■学習指導に当たって

「何が／誰が」「いつ」「どこで」「何を」「どのように」「どうした」など複数の概念間の論理的関係が、文中でどのように保持・表現されているかを的確に理解できるようにする必要がある。また、文を超えたレベルでの話の流れを追うことについても同様のことが言える。

ワーキングメモリー（動作記憶）の仮説によれば、文字や音声など低次元の情報の処理に費やされる記憶資源が大きければ大きいほど意味解釈に割かれる部分が少なくなる。第二言語学習においては母語習得よりこの傾向が顕著になるので、ワーキングメモリーの容量が大きく操作効率がよい学習者ほど第二言語学習がスムーズに進むと言われている。これはある程度生得的なものであるが、個人差が大きいため、ワーキングメモリーが小さく

でも学習によりカバーすることが可能である。英語が苦手な学習者は、定型表現など固まりで使うことができ、分析的な意味解釈の負担が少ない表現を何度も繰り返し使うことで意味理解に充当するメモリーに余裕を持たせ、より多くの概念とより広範囲の文脈をとらえられるようになる。

〈学習活動の例〉

(1) パラフレーズ

- ・ 教員 : The doctor wants the patient to stay calm. That is, the doctor told the patient that she ...
- ・ 生徒 : should be quiet, should not get excited, etc.

(2) 並べ替え

教員は生徒に、一連のストーリーを示す複数のイラストを順不同で見せる。

- ・ 教員 (絵を見せながら) : There was a bottle of milk in the fridge. / The bottle is empty.
/ Naomi looked for something to drink. / Naomi was very thirsty. / Naomi drank it.
Now, make a story explaining what happened.
- ・ 生徒 : When Naomi came home, she was very thirsty. She looked for some drink in the fridge and found a bottle of milk. She drank it up, so the bottle for her family is now empty.

注) ここでは内容の骨子が保たれていればよしとする。

Part B Question 31

■この設問で問うている力

- ① 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ② 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。

<スクリプト> [F: Female, M: Male]

F: I'm entering the nature category of the photography contest. How about you?

M: The buildings category. Many local places owned by famous people were designed by great architects.

F: How many photos can I submit?

M: However many you like, in color or black and white, using digital or film cameras.

F: And the size?

M: Photos can't be wider or higher than thirty centimeters.

31. What rule must be followed by people entering the photography contest?

- [A] They aren't allowed to submit more than one photo.
- [B] They must only submit black and white photos.
- [C] They shouldn't take the photos with digital cameras.
- [D] They can't submit photos larger than the size limits.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする。

■解答類型と反応率

Q. 31

選択肢	反応率	正解
A	15.2%	
B	34.3%	
C	26.5%	
D	22.3%	◎
無解答	1.6%	

■分析結果と課題

正解の選択肢 [D] は能力レベルが上がるにつれて選択率が高くなっているが、誤答の選択肢 [B] の方が全体として多く選ばれ、比較的上位の能力者でも 誤答の選択肢 [A] と同程度選ばれている。誤答の選択肢 [B] にある“black and white photos”という語句が音声テキスト中に似た形 (“in color or black and white”) であるため、これに惹かれた可能性が高い。また、下位能力者はこの設問においては譲歩を表す“however”を逆接の接続詞と見なし、それ以降の部分を禁止内容ととらえた可能性もある。一方、正解の選択肢 [D] では、英文中の“Photos can't be wider or higher than thirty centimeters.”から“They can't submit photos larger than the size limits.”に言い換えられているため、多くの生徒が同じ意味であることをとらえられなかったものと考えられる。

■学習指導に当たって

表面的な語句の音声のみにとらわれことなく、その意味を理解させる指導が求められる。これはリスニング学習の基本であるが、実際の指導がそこまで到達しておらず、言語処理にとどまっている可能性が高い。例えば、“We need to stop the destruction before it is too late.”という英文のディクテーションを行う際、語句の細かいチャンク単位 (we need / to stop / the destruction / before / it is too late) で時間を取って書き取らせているのは、音声信号を書記記号に置き換える作業をしているにすぎない。書き取る単位を文、あるいは短い談話まで拡大して区切りを設けずに聞かせ、意味内容を理解しなければ再生できないような負荷を与えることで、より高いレベルの処理をする学習になる。ただし、この場合の評価のポイントは意味の骨子が記録されていることであり、表面的な語彙項目の正確さではないことに留意する必要がある。例えば、上記の英文の場合、“We must stop the destruction soon.”は意味を保持しているが、“We need to stop the destruction later.”は逸脱している。意味内容の柔軟な言い換えができるようにするためには、日常の言語活動の中で、教員が様々な言い換えを示すなどしてインプットの量を増やす必要がある。

Part B Question 20

■この設問で問うている力

- ① 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。
- ② 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。

<スクリプト> [M: Male, F: Female]

M: Who was the woman you were with yesterday, Becky?

F: My mother. We were shopping for a birthday present for my father.

M: You two really look alike.

F: Do you think so?

20. What does the speaker say about Becky and her mother?

- [A] That they like shopping.
- [B] That they like her father.
- [C] That they bought a birthday present.
- [D] That they look similar.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

一定以上の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする。

■解答類型と反応率

Q. 20

選択肢	反応率	正解
A	26.2%	
B	22.8%	
C	34.2%	
D	15.6%	◎
無解答	1.3%	

■分析結果と課題

この設問は難易度が高く、正解の選択肢 [D] を選ぶ割合が 50%を超えるのは一部の上位能力者に限られる。低位能力者では他の選択肢がほぼ同じ割合で選択されている（ランダムな解答）が、比較的上位の能力者でも誤答の選択肢 [C] を選ぶ確率が高い。誤答の選択肢 [A]、[B]、[C] とともに音声テキスト中に対応する表現（“shopping”、“father”、“a birthday present”）があることに加え、いずれも内容が表面的に関連した情報であるため、これらを否定する根拠がないと考えたものと思われる。一方、正解の選択肢 [D] では表現が言い換えられている（alike → similar）ことに加え、設問の “What does the speaker say about Becky and her mother?” が Becky とその母親について尋ねていることから、“speaker” は対話者のうちの男性 (M) を指すことを理解しなければならない。さらに、“shopping”、“a birthday present”、“father” はいずれも Becky の発話なので、設問で問われている「話者の発話内容」（“What does the speaker say”）とは、相手の発話内容ではなく自分が受けた印象について尋ねたものであることを理解する必要がある。これらの談話の視点が係る理解を前提とするため、正解に至るには難度が高かったと思われる。ただし、これらの論理関係の把握は一つ一つは単純なものなので、それらの集約的処理に慣れていると思われる上位の学習者の正答率は高い。

■学習指導に当たって

文レベルを超えて談話の意味や視点の流れを追うためには高度なコミュニケーション・スキルが求められるが、これは実際のコミュニケーション場面では極めて重要である。どのような場面で、どのような表現をすることが、どのような意味を持つかを十分理解させるような言語活動を行うことが重要である。例えば、“I can't find the document.” という発言に対する適切な応答は “Where is the document?” ではなく、“Did you try the bottom drawer?” などである。話者の発言にある含意を理解するためには、（He/She is looking for the document.） --> （It may be in the bottom drawer.）という補助線を途中で引くとわかりやすくなる。このことを教員が簡単な英語で説明したり、生徒自身が考えて説明したりする活動を取り入れるとよい。

6. 解説：ロジスティック回帰分析による選択肢出現確率表示

多肢選択型のテストの場合、どのレベルの受験者がどのような選択肢を選ぶ傾向があるかがわかれば、学習上の課題や困難点がより明確に理解できる。ロジスティック回帰分析は、合計得点や能力値などの連続量を説明変数（横軸）とし、カテゴリー量である選択肢を目的変数（縦軸）としてその出現確率を推測するものである。今回使用した統計パッケージ（JMP）では、選択肢は積み重ねて表示され、各選択肢の出現確率はそれぞれの層の厚みで表現される。

リスニングで取り上げた3問の分析出力は、次のようになる（図1～3）。ここでは横軸に項目反応理論による能力値（0は平均、+1は平均より標準偏差1つ分上の能力値（いわゆる偏差値換算）で60）を表し、左右方向中央の黒い点の帯は「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」によるA2レベルを、それより左側の灰色の帯はA1レベル、右側の帯はB1レベルを示す。

図1 項目16（=Q.16）

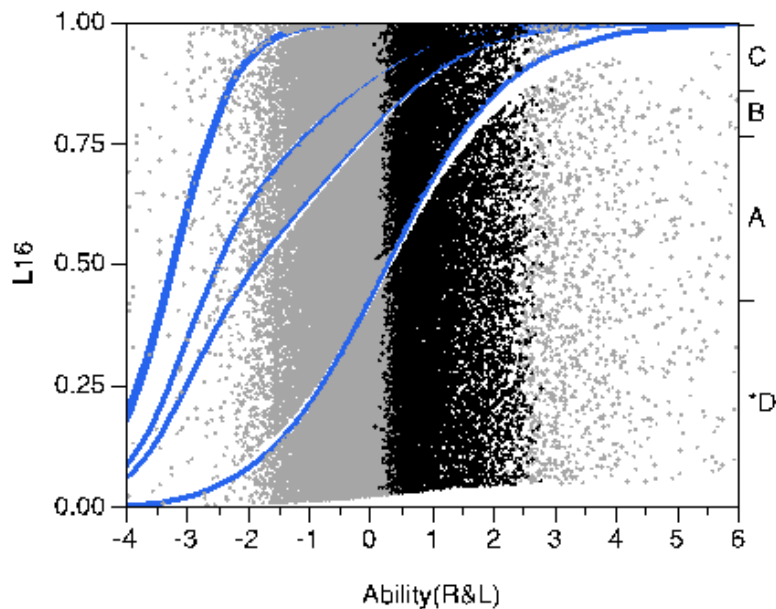


図 2 項目 31 (=Q. 31)

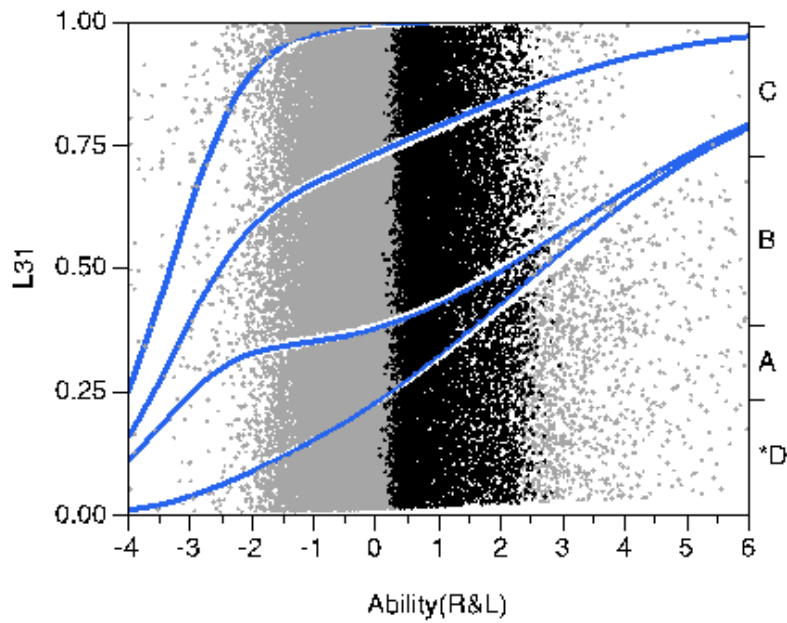


図 3 項目 20 (=Q. 20)

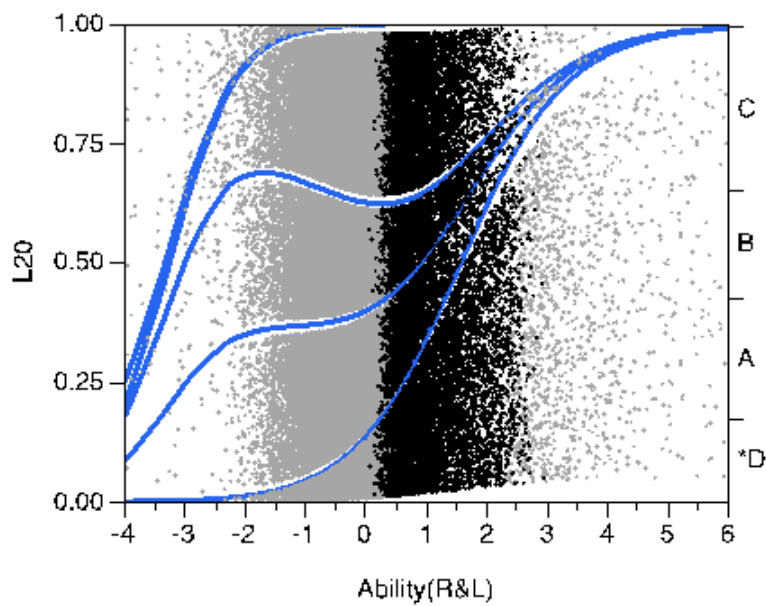


図 1 (項目 16、つまり Q. 16) の選択肢の絵を選ぶ設問では、能力値+1 (偏差値 60) にある生徒は約 65%が正解の選択肢 [D] を選んでいるが、-1 (偏差値 40) の生徒ではこれが約 21%に減り、逆に約 42%が誤答の選択肢 [A] を選んでいる。「分析結果と課題」に記したように、比較的下位の能力者にとって改善すべき課題である。

図 2 (項目 31、つまり Q. 31) の写真コンテストに関する対話の設問では、正解の選択肢 [D] を選んだ生徒は能力値-1 での約 15%から能力値+1 での約 32%と、能力が上がるにつれて上昇しているが、誤答の選択肢 [B] を選んだ生徒も能力値-1 での約 32%から能力値+1 での約 36%に微増している。この中間レベルの学習者が正しく答えられるように指導することが目標となる。

図 3 (項目 20、つまり Q. 20) の Becky とその母親に関する対話の設問では、正解の選択肢 [D] を選んだ生徒は能力値-1 での約 5%から能力値+1 での約 34%、能力値+2 では約 62%と、能力が上がるにつれて急上昇している。しかし、誤答の選択肢 [A] ~ [C] を選んだ生徒が能力値-1 ではいずれも約 30%おり、特に選択肢 [C] は平均あたり (A1 と A2 の境界線) では約 40%が選んでいる。これは、低位の能力層では正解以外はランダムに選ばれていることを示している。正解の選択肢を選ぶ確率が 50%を超えるのが能力値 1.6 (偏差値換算で 66) 前後となっており、かなり高い能力レベルの学習者でも困難を感じていることがわかる。

いずれの項目でも、注目すべきは (1) 正解の選択肢は能力が上がるにつれて順調に伸びているか、(2) 特定の錯乱肢が多く選ばれる傾向があるのはどの能力層か、という点で、これがわかれば指導の対象レベルや内容が特定しやすくなる。

(3) 書くこと ～ Writing ～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えについて簡潔に書くことができる。
- ② つながりを示す語句（文と文、段落と段落の意味的・文法的なつながりを示す語や表現）などを用いて、内容の要点を示す語句や文を含む文章を書くことができる。
- ③ 事実と意見などを区別して書くことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

設問 1 … ある事柄についての説明文を音声で聞き、その内容の要点を書いて文章にまとめる力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

設問 2 … 与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①、②及び③の力を見ている。

3. 課題など（◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点）

書くこと

- ◆聞いた情報の要点を把握して適切に書くことに課題がある。
- ◆聞いた情報の要点を把握して適切な表現を用いて書くことに課題がある。
- ◆与えられたテーマについて、自分の意見や理由を適切に書くことに課題がある。

4. 指導改善のポイント

書くこと

○聞いた情報を要約して書く指導の工夫

説明文などを聞いてその内容を要約して書くためには、まず、要約する文章のポイントをしっかりと聞き取ることが必要である。そのためには、最も大切な情報、つまり、メイン・アイデアを十分に把握できるように指導することが重要である。また、聞いたり読んだりした内容について話したり書いたりするなど、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を組み合わせる統合的な言語活動に慣れ親しませ、積極的に取り組む

態度を育成することも大切である。

○与えられたテーマについて自分の意見や理由を書く指導の工夫

与えられたテーマについて自分の意見や理由を書く力を身に付けるためには、「どう思うのか」という意見と「どうしてそう思うのか」という理由とを明確に区別し、“I agree …”などの表現で始める自分の意見に続き、そう思う理由を具体例などを入れながら読み手にわかりやすく書く活動を豊富に経験することが大切である。また、意見や理由などを考えるために、ブレインストーミングをしたりアウトラインを作成したりして、効率的に文章を構成・作成するための準備をするように指導することも重要である。

5. 問題詳細分析

設問 1

■この設問で問うている力

- ① 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えについて簡潔に書くことができる。
- ② つながりを示す語句（文と文、段落と段落の意味的・文法的なつながりを示す語や表現）などを用いて、内容の要点を示す語句や文を含む文章を書くことができる。

1. これから読まれる英文を聞き、その内容を30語程度の英語で要約しなさい。英文は2回読まれます。問題の途中でメモを取ってもかまいません。解答時間は4分です。

<スクリプト>

Have you ever heard about a unique kind of boat race? It takes place in a town in Australia. It's amazing because it's held in a river with no water! The "boats" travel on sand, not water. This is because the town is located in the desert. So the river is dry almost all of the year. But that doesn't stop the town from holding a boat race every year.

If there isn't any water, people can't usually row boats. So how can the boats in this race move along a dry river? The answer is that people carry boats while running. They can do this because the boats have no bottoms. They need to hold their boat tightly and run fast in the race. It looks funny to see people running while carrying their bottomless boats! Anybody can be a boat racer! You don't even need to know how to row a boat.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

150語程度の英文を聞き、その内容を指定語数（30語程度）で要約する。

■得点と割合

設問 1

「内容」 要点 1		「内容」 要点 2		「表現」	
得点	割合	得点	割合	得点	割合
0 点	73.9%	0 点	88.7%	0 点	65.0%
1 点	23.2%	1 点	7.9%	1 点	15.0%
2 点	2.9%	2 点	3.3%	2 点	17.5%
				3 点	2.5%
				4 点	0.0%

■分析結果と課題

上記「内容」要点 1 は聞いた英文の 1 段落目、「内容」要点 2 は聞いた英文の 2 段落目の要点に関する得点である。要点を書かなかった生徒はそれぞれ全体の 73.9%と 88.7%に上り、聞いた内容の要点を把握して書くことに課題がある。また、「表現」は、聞いた英文の要点が適切な表現で書かれているかに関する得点である。65%の生徒が適切な表現で英文を書くことができず、この点にも課題があると言える。

生徒質問紙 No. 13-(2)「第 2 学年の英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていませんか」との問いに対し、「そう思う」(選択肢①)と回答した生徒は CEFR におけるライティングの A1 レベルで約 1 割、A2 レベルで約 2 割、B1 レベルで 3 割台半ばとなっており、ライティング力の高い生徒ほど本設問のような統合的な言語活動を授業で経験している。

一方、教員質問紙 No. 1-(5)「聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、書く活動を行っていますか」との問いに対し、「よくしている」(選択肢①)と回答した教員は全体の 1 割程度であり、本設問のような統合的な言語活動が授業ではあまり行われていないと言える。

本設問のような統合的な言語活動は、改訂された学習指導要領においても、英語の 4 技能を総合的に育成してコミュニケーション能力を伸ばすための指導として高等学校段階で改善を期待されているものであり、授業に積極的に取り入れることが重要である。

■学習指導に当たって

○文章のメイン・アイデアや重要なポイントを聞き取る活動の充実

文章のメイン・アイデアや重要なポイントを聞き取る活動の一例として、文中で比較的強く発音される内容語(名詞、動詞、形容詞、副詞など)を聞き取る練習が挙げられる。

例えば、本設問中の“Have you ever heard about a unique kind of boat race? It takes place in a town in Australia.”に出てくる内容語を聞き取ることができると、“... you ... heard ... unique kind ... boat race? ... takes place ... town ... Australia”の部分が変わる。これらの単語を手掛かりに、この2文を **There is a unique boat race in Australia.** のように要約することができる。

内容語が聞き取れるようになったら、前置詞などの機能語を聞き取る指導を加えていきたい。例えば、上記の文で更に前置詞を聞き取ることができると、“... you ... heard about ... unique kind of boat race? ... takes place in ... town ... in Australia”となり、内容語だけの理解よりも正確に文章の内容を把握し、その上で要約をすることが可能となる。

最終的には内容語や機能語の別なく全体的に聞き取ることが目標ではあるが、より強く発音される内容語の聞き取りから、より弱く発音される機能語の聞き取りへと段階的な指導をすることで、生徒が段階に応じて理解できる部分を増やしながらかつ徐々に正確な要約を試みるようになると思われる。授業においては、聞いた英文について内容語を中心にメモを取り、それに機能語で重要なものを加え、そのメモをもとに要約をするといった指導が考えられる。

○要約活動の工夫

ポイントとなる英文が理解できなければ、的確に要約することは難しい。そのため、まずは平易な英文を読んで内容を要約する練習を行い、徐々に英文の量を増やしたり内容を難しくしたりして、ある程度の長さや難しさの英文を読んで要約できるようにすることが大切である。このプロセスを経ると、英文を聞いて要約する活動にも比較的スムーズに移行できるであろう。このように、段階を追って指導することは、4技能の統合的な活動においては常に留意すべき点である。

要約を書く前に文章の内容をできるだけ網羅的に理解することが重要になるが、その中でも特に、全体が「何について書かれているか」、つまり、本設問における“**a unique boat race**”のようなトピックを押さえる必要がある。次に、「そのトピックがどのようなか」というメイン・アイデアが書かれている文、つまり、トピック・センテンスを見つける練習をすることが大切である。例えば、本設問では、1段落目のトピック・センテンスが“**It's amazing because it's held in a river with no water!**”、2段落目のトピック・センテンスが“**The answer is that people carry boats while running.**”であり、この2文をまとめると全体の概要になる。このように、要約する方法に特化した指導を行うことも効果的である。

○統合的な言語活動の工夫

総合的なコミュニケーション能力を育成するためには、4つの技能を別々に指導することにとどまらず、学習指導要領にも明記してあるように、聞いたり読んだりして得た情報をもとに話したり書いたりするなど、複数の技能を有機的に統合した言語活動を授業の中で頻繁に取り入れることが重要である。例えば、聞いたり読んだりして理解したことを、話したり書いたりして他の人に伝えることを最終的な目標とした活動を行うことが望ましい。本設問では、英文を聞いて、その話題である“a unique boat race”がどのようなものであるかを簡潔に書いて説明することが求められている。実際の授業では、このような書く活動の他にも、ニュースキャスターになったつもりで聞いた内容を話して伝える活動を行うことなども考えられる。さらには、聞いたことをもとに、他の興味深いレースやイベントなどについて調べ、得た情報を整理して発表するなどの発展的な学習を取り入れることもできる。このような統合的な言語活動を授業に取り入れる際には、できるだけ生徒の興味・関心を引く話題や内容を扱うことが大切になる。

統合的な言語活動は、授業の中だけで行うのではなく、例えば、自分が調べたことを書いてまとめたポスターを教室内に貼って生徒同士で読み合ったり、教科書で学習した内容についてグループでリサーチした結果を姉妹校との国際交流活動の一環として発表したりするなど、授業外活動に発展させることも生徒の動機づけを高めることにつながると考えられる。このような活動において特に留意すべきなのは、内容を伝えることを主な目的とし、語彙や文法の正確さなど形式的な側面の指導は内容をより適切に伝えるための補足的なものとして組み込むように工夫することである。

設問2

■この設問で問うている力

- ① 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えについて簡潔に書くことができる。
- ② つながりを示す語句（文と文、段落と段落の意味的・文法的なつながりを示す語や表現）などを用いて、内容の要点を示す語句や文を含む文章を書くことができる。
- ③ 事実と意見などを区別して書くことができる。

2.

- ・2.の解答時間は20分です。残り時間が2分になると放送で知らせます。
- ・2.では、自分自身の考えや具体的な経験に基づいて、自由に書きなさい。
- ・制限時間内でできるだけたくさん書きなさい。
- ・イラストは、具体例を書くための参考です。イラストの内容を参考にして書いても、あなた自身の経験を書いてもかまいません。



あなたは授業中に、下記のテーマで英語のエッセーを提出することになりました。

エッセーのテーマ：

インターネットなどを利用して、多くの人と友だちになることが話題になっています。このような方法で友だちや知り合いを増やすことについて、あなたはどう思いますか。あなたの意見とその理由を書きなさい。解答時間は20分です。



※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する。

■得点と割合

設問2

「内容」	意見
得点	割合
0点	79.3%
1点	20.7%

「内容」	理由
得点	割合
0点	58.6%
1点	41.4%

「表現」 語彙	
得点	割合
0点	31.2%
1点	37.6%
2点	28.9%
3点	2.4%
4点	0.0%

「表現」 文法	
得点	割合
0点	38.6%
1点	36.9%
2点	23.3%
3点	1.3%
4点	0.0%

「構成」	
得点	割合
0点	52.8%
1点	23.5%
2点	21.2%
3点	2.6%
4点	0.0%

■分析結果と課題

与えられたテーマに関する自分の意見を適切に書いていない生徒が約 8 割、自分の意見をサポートする理由を適切に書いていない生徒が約 6 割に上っている。このように、与えられたテーマについて自分の意見やその理由を書くことに課題が見られるが、これは本設問に限ったことではなく、書く内容が指定されるこの種の形式の問題の無解答率は一般的に高いようである。例えば、国立教育政策研究所の教育課程実施状況調査（平成 17 年度）高等学校「英語 書くこと」におけるトピック指定問題では、無解答の生徒と、書いていても最低基準の分量に達しない生徒を合わせると約 5 割に及んでいる。

また、出題のテーマから外れた語彙を使用した生徒が約 3 割、文法的に適切な英文を書けなかった生徒が 4 割近くを占め、出題のテーマに沿って適切な語彙や文法をライティングで使うことに課題がある。

一方、教員質問紙 No. 1-(10)「論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら、読んだり書いたりするように指導していますか」との問いに対し、「よくしている」（選択肢①）と回答した教員は全体の 16%程度にとどまり、本設問のような活動が授業ではあまり行われていないことがわかる。また、生徒質問紙 No. 12「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか」や No. 13「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか」との問いに対する回答とライティングのスコアとのクロス集計によると、ライティング力が高い生徒ほど「そう思う」（選択肢①）と回答した生徒が多いことから、授業においてこのような活動の機会を増やすことも上記の課題を解決するための一方策として考えられる。

■学習指導に当たって

○課題に対して自分の意見を明確にする練習の工夫

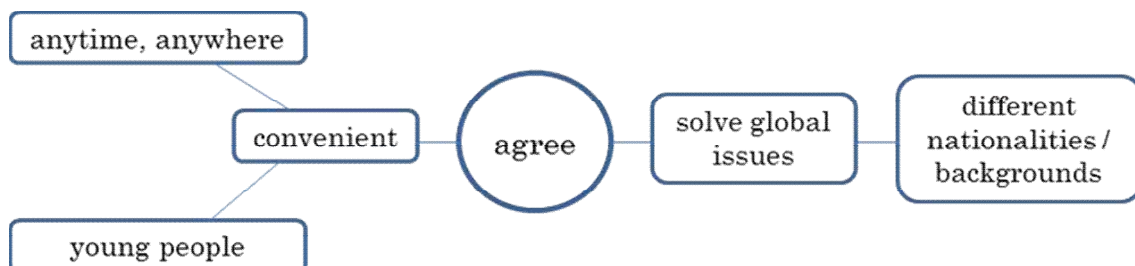
自分の意見を明確に表現するには、I agree / disagree with ..., I support ..., I favor ..., I prefer ... などの意見を表明する動詞、It is a great / brilliant / good idea that ... のような評価を表す形容詞、We should ... のような判断を表す助動詞を使うなど、言語項目の指導をすることが大切である。

日本語で自分の意見を相手に伝えようとする際、理由を述べることから始め、その理由から自分の意見を間接的にわかってもらおうとすることも多い。そのことに影響されているためか、まず自分の意見を明確にし、その理由を続けて述べるというパターンに慣れていない生徒も少なからずいるように思われる。そのため、授業において、与えられたテーマに賛成か反対かを明確にした上でその理由を述べる練習を繰り返し行うことが大切である。

○自分の意見をサポートする理由を効果的に提示するための準備活動

自分の意見を明確にした上でその意見をサポートする理由を述べるができるようになるために、その準備活動を工夫することが重要である。例えば、英文を書き始める前段階として、関連する概念を放射線状につなげたり（マッピング）、思いついたことを列記したり（リスト）、文章の形式で書いたり（フリーライティング）することによって、意見や理由などをできるだけ多く挙げておくと、よりスムーズに書くことができる。また、個人では考えつかないこともあるため、ペアやグループで話し合い、他の人の考えも参考に自分のアイデアを組み立てるという方法も取り入れるとよいであろう。

【マッピングの例：（話題） Making friends using the Internet】



○典型的なフォーマットを身に付けるための工夫

意見を書く際、通常、「序論」→「本論」→「結論」の順に、それぞれ次のような内容について書くように指導することが大切である。

1. 序論：意見を表明する。
2. 本論：表明した意見の理由や、それをサポートする具体例などを書く。
3. 結論：まとめとして、再度、意見を表明する。

上記のフォーマットを踏まえて最初にアウトラインを作成し、全体の構成を考えた上で書くように指導することが効果的である。例えば、本設問の場合、一例として次のようなアウトラインが考えられる。

Topic: Making friends using the Internet

【Introduction (opinion)】

When making friends, I think it is better to communicate with people through the Internet than to talk to them face-to-face.

【Body (reasons)】

1. The Internet is convenient.
 - People can send and receive emails anytime and anywhere.
 - Young people are good at making new friends on the Internet.
2. The Internet can be used to solve important global issues.
 - People of different nationalities and backgrounds can become friends on the Internet.

【Conclusion (summary)】

It is a good idea to make friends using the Internet because it is convenient and it can also lead to meaningful communication among people around the world.

○つながりのある文章を書くための工夫

文脈が明確な文章を書くためには、つなぎ言葉を活用することが大切である。例えば、First や Next などの順序を表す表現、In addition / However / On the other hand などのように前文との関係を表す表現、For example / For instance などのように例を加える表現、In conclusion / To sum up などのように結論を述べる表現などがあり、このような表現を効果的に使うことができるように指導することが重要である。また、同義語(例: When making

friends, I prefer using the Internet to talking face-to-face because making friends online has a lot of advantages.) や代名詞 (例 : When making friends, I prefer using the Internet to talking face-to-face because making friends through it has a lot of advantages.) を使ってつながりのある文章を書く方法なども、段階を追って授業で紹介する工夫をすることが大切である。

(4) 話すこと ～ Speaking ～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを英語で話すことができる。
- ② 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。
- ③ 事実と意見などを区別して話すことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A … 英文を音読し、単語を正しく発音できているか、意味のまとまりを理解して音読できているかを測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B … 試験官からの問いかけに応じて、個人の経験や考えをもとに、質問に対して即座にかつ適切に応答する力を測定する問題で、上記学習指導要領における②の力を見ている。

Part C … 与えられた社会的な話題に対して、個人の考えや経験に基づいて意見を述べる力を測定する問題で、上記学習指導要領における③の力を見ている。

3. 課題など (◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点)

話すこと

- ◇約 80%の生徒が、与えられた 80 語程度の英文を、母語アクセントが残っていたり、発音を間違ったりすることも時にあるが、ほぼ適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを発話することができる。
- ◇約 60%強の生徒が、基本的で身近な話題に関する質問の半数以上について、基本的な誤りを繰り返し含みながらも、伝えたい内容はほぼわかる程度の応答を即興ですることができる。
- ◆与えられた質問について、ある程度の準備をして、様々な表現方法を使いながら適切な英語を用いて応答することに課題がある。

4. 指導改善のポイント

話すこと

- 聞いたり読んだりした英文の内容について、英語で Q・A をしたり概要や要点をまとめて話したりすることなどにより、理解の確認を行う機会を増やすことが大切である。
- ペア・ワークやグループ・ワークなどを効果的に導入し、個々の生徒が発話する機会を増やすことが必要である。
- 生徒にとってできるだけ興味・関心のある話題・内容を扱うとともに、間違いを気にせず互いに発話できる雰囲気をつくることが大切である。
- 発話については、言語形式よりもやりとりする内容（情報や考えなど）に重点を置くことが大切である。
- 発話した内容を書く機会を与え、文法、表現、語彙などについて適宜コメントやアドバイスをすることが必要である。

5. 問題詳細分析

Part A

■この設問で問うている力

- ① 適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを英語で話すことができる。

Please read the passage silently for 30 seconds.

<30 seconds>

Now please read it aloud.

Water clocks were used long ago. A person would see how much water ran out of a can. Lines were drawn on the can, with each one representing one hour. People could tell what time it was by looking at the line and the amount of the water left in the can. Water clocks could work at night and could be used many times. Which would you like to have, a water clock or a digital clock?

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

問題冊子に印刷された英文（77語）を音読する。

■得点と割合

観点1：適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話すことができる。

得点	割合
0点	19.3%
1点	61.4%
2点	19.3%

■分析結果と課題

80語弱の英文を正確に、ある程度流ちょうに音読することを求めた設問である。音読は、英語の学習において最も基本的な活動の一つである。しかし、「母語アクセントが残っていたり、発音を間違ったりすることも時にあるが、ほぼ適切な発音、リズム、イントネーション

ョン、速度、声の大きさが保たれている」ことを示す1点が受験者の61.4%と半数以上であったり、「明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさに」音読が行われていることを示す2点が19.3%と低い値であったりした。また、19.3%の受験者は0点、すなわち「適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う」と判断された。

音読の結果と英語の学習時間とを比較検討したところ、休日に学校の予習・復習以外に英語に接している時間が長い生徒ほど音読の得点が高いという傾向が認められた（相関係数 $r = .434$ ）。週日の学習時間との間にも、値はやや低いものの相関が認められた ($r = .321$)。

また、スピーキングテスト全体の得点が高い生徒は音読の得点も高いという傾向を示している。この結果は、音読がスピーキング能力の基礎力を示していると同時に、スピーキング力に優れた生徒は音読もできるということを意味している。

■学習指導に当たって

英語を発話する際、「正確さ (accuracy)」と「流ちょうさ (fluency)」の両方が必要とされることは言うまでもない。正確で流ちょうな発話ができるということは、適切に意味が伝えられることを意味する。音読は、生徒が英文の意味を理解しているかどうかを示す指標となることを示す実証研究も多々ある。

スピーキング力を高めるための音読の指導に当たっては、注意したい点はいくつかある。第一に、人間の情報処理能力には限界があり、意味の理解と発話という二つの異なる要素に同時に集中することは困難であるということである。したがって、音読において意味の理解と正しい発音という二つの異なる言語活動に同時に意識を向ける必要性を最小限にとどめるために、音読を行う前に英文の意味を理解していることが望ましい。そもそも意味を伝えずに話すということは現実にはありえないので、英文を読み上げる際にも、あくまで理解した内容を伝えるために発話するという意識しなければならない。

第二に、正確な音声（子音、母音、語強勢、文強勢、イントネーション）を習得させるためには、モデルが必要となる。CDを聞きながら後を追って発話したり、慣れてきたらテキストを見ないで音声を追って発話したりするシャドーイングなども効果的である。しかし、これらの活動では、聞こえてきた音声を機械的に繰り返すだけの練習になりがちでもある。一歩進んで、感情を込めて聴衆に伝えることを意識しながら英文を読み上げるオーラル・インタープリテーション（音声解釈表現法）がある。例えば、悲しい内容については悲しさを込めた音調で、楽しい内容については晴れやかな気持ちを込めて読み上げる。教室に英語の母語話者がいればよいが、事前にALTに依頼して録音教材を作成しておいてもよい。その後、英語の非母語話者である日本人教員が生徒に示してもよい。教員独自の

解釈を音声表現に表した音読は、生徒にも優れたモデルとなるであろう。

第三に、音読する際には、常に聞き手を想定することが重要である。通常の言語使用場面において、声を出して英文の内容を伝えるべき相手は、その内容をまだ知らないはずである。聞き手は一人かもしれないし、大勢の聴衆の場合もある。具体的な聞き手を想定して音読することによって、単なる機械的な音読練習ではなく意味のある発話の練習にすることができる。

意味のあるスピーキング力向上のための音読指導として、例えば、次のような指導が有効であると考えられる。

○ “Read and look-up”によるスピーキング力養成を目的とした音読練習

英文に目を通しながら、意味の区切りごとに目をあげ、英文を見ないようにして記憶から声を出して英文を読み上げる方法である。単純ではあるが、認知心理学から見て大変理にかなった方法である。表層的な形式としての英語が単に短期記憶に貯蔵されるだけでは機械的な練習に終わってしまうが、“Read & look up”では意味を理解していることを前提とする。意味単位で理解ができていなければ正しく発話することはできないため、意味の理解と音読を有機的に関連させた方法だと言える。教員が事前に意味単位を示した、いわゆるスラッシュ・リーディングが広く行われているが、生徒が意味を理解しているかどうかを確認することも併せて“Read & look up”を使うためには、生徒自身にスラッシュを記入させることが望ましい。

Part B

■この設問で問うている力

- ② 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。

I'm going to ask you some questions. Are you ready? OK, let's begin.

Question No.1:
How do you usually get to school?

Question No.2:
After you get up on school days, what do you usually do before leaving for school?

Question No.3:
What is your favorite school event, like a school festival, a school trip, and so on, and what do you do at that event?

Question No.4:
What book have you read recently? Please explain what it is about.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを述べる。

■得点と正解率

観点2：相手の発言に対応した適切な内容のやり取りとなっている。

観点3：適切な文法や表現を用いている。

得点	割合
0点	36.5%
1点	37.4%
2点	19.7%
3点	6.4%

得点	割合
0点	46.0%
1点	34.0%
2点	16.1%
3点	3.9%

■分析結果と課題

この設問では、基本的な質問に対して、適切な内容を適切な表現で答える能力が要求される。質問に対して準備をする時間は与えられず、即興で応答する能力が求められるが、質問は自分が所属するクラブ活動や将来についてなど、生徒にとっては身近な内容である。二つの観点、「内容の適切性」(観点 2)と「文法・表現の適切性」(観点 3)の間には強い相関が認められた ($r = .812$)。この結果は、適切な応答ができない生徒は文法的にも不正確であり、使用できる表現の範囲も限られていることと、それとは逆に、適切な応答ができる生徒は文法的に正確であり、様々な表現方法を用いることができることを表している。

また、観点 2 では 36.5%が、観点 3 では 46.0%が 0 点という結果であった。これは、4 問中応答できたのが 1 問のみ、あるいは全く応答できなかった生徒がかなりいたこと、さらには、応答できたとしても表現が極めて限定的であったことを示している。

観点 2 では 37.4%が 1 点、観点 3 では 34.0%が 1 点で、4 問のうち 2 問以上において、基本的な誤り(時制の誤りなど)を繰り返し含みながらも伝えたい内容はほぼわかるといった程度の応答であったと判断される。一方、全ての質問において理解の妨げにならない程度の誤りを含みながらも相手が理解できる応答をすることができたことを示す 3 点は、観点 2 で 6.4%、観点 3 で 3.9%とごく少数であった。

Part B の結果を他の技能別調査結果と比較すると、最も相関が高い技能がライティングである。中でも最も相関の値が高かったのは、スピーキングの「観点 3 (文法と表現)」とライティングの「表現」であった ($r = .639$)。最も低い相関はライティングの「内容」であったが、それでも相関係数は低くなかった ($r = .557$)。この結果から、スピーキングとライティングの能力は並行関係にあることがわかる。ライティング能力がスピーキング能力を引き起こすのか、あるいはその逆であるかは、この結果だけからはわからない。しかし、両者には有意な関係があり、スピーキング能力を高めるためにはライティングの活動が有益であることを示している。

■学習指導に当たって

スピーキングの Part B の結果を質問紙調査の結果と併せて検討すると、生徒質問紙 No. 15 「(授業において) 英語でのディベートやディスカッションをしていたと思いますか」との問いの間に正の相関が認められた(観点 2 との相関 $r = .761$ 、観点 3 との相関 $r = .769$)。このことは、これらの活動を授業で行ったことがあると回答した生徒ほど、本調査でも適切な内容を適切な文法・表現を使って応答ができていたことを示している。

また、生徒質問紙 No. 12 「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか」との問いに、第 1 学年から第 3 学年までを通して、「どちらかといえば、そ

うは思わない」(選択肢③)と「そうは思わない」(選択肢④)の合計が60%以上となっている。教員と生徒との一対一の対応では、限られた時間の中で生徒一人一人に発話の機会を十分に与えることは困難である。自由な考えを交換することのみならず、基本的な質疑応答、例えば、warm-up 活動でのやりとりや教材の内容理解のための Q-A などを生徒同士が行うペア・ワークやグループ・ワークなど、様々な授業形態が望まれる。

さらに、前述のとおり、スピーキングとライティングの能力の間には高い相関が認められた。もっとも、両者の間には完全な相関関係があるわけではなく、「書くこと」を話す力を高めることにつなげるためには、目的に応じた工夫が必要である。例えば、英語を使うことに対する心理的抵抗感を取り除くことを目的とするならば、形式にとらわれることなく限られた時間内にできるだけたくさんの量の意味のある英語を書く、あるいは発話するといった練習が必要である。この場合は流ちょうさの向上が目的なので、書いたり話したりするテーマは生徒が自発的に選んだ身近なものであることが重要である。話したり書いたりすることが不得意な生徒の中には、そもそも何について話したり書いたりすればよいのか、その内容が思い浮かばないということもあるので、できるだけ生徒にとって興味・関心のある内容を扱い、言語を使うことに集中できるようにすることが重要である。また、流ちょうさを高めることを目的とする場合は、教師のコメントやアドバイスは内容に対して行われるべきであり、言語の校正は最小限に抑えるべきである。

一方で、観点2の「内容の適切性」よりもむしろ観点3の「文法・表現の適切性」において低い得点であったことは、多くの英語学習者の問題として真摯に受け止めるべきである。発話が流ちょうにできさえすればよいのだという指導ではなく、多様な表現方法を用いるなどして適切に応答ができることにも配慮すべきであろう。そのためには、意味のある英語を聞いたり読んだりする機会、すなわち理解できるインプットの量を増やす必要がある。また、情報や考えなどを表現する機会、すなわちアウトプットの量も増やさなければならぬ。この際、英語力の低い生徒には、英文がごく易しいビデオを見せることも一つの方法である。そうすることによって無意識のうちに適切な英語の形式を身に付け、それを実際に使う契機を得る。そのような練習を重ねながら、教員は生徒の発話を観察する機会を増やし、生徒が伝えたい内容を伝えられなかった場合や繰り返し同じような間違いをしている場合には、適切な文構造や表現方法をリスト化するなどして指導する必要がある。

これらのことを踏まえ、例えば、次のような指導が有効であると考えられる。

○「4-3-2 メソッド」によるスピーキング力の養成

ある課題を生徒に与え、制限時間を4分、3分、2分と徐々に短くしながら繰り返し同じ課題を行わせ、課題達成のプロセスを自動化させることを目標とした方法である。

(展開例)

【第1ラウンド】

- ・「昨日の授業で最も頭に残っていること」や「部活動での反省点」などといった身近なテーマを与える。
- ・ペアの生徒Aが4分で、与えられたテーマについて生徒Bに話す。
- ・役割を交代して、生徒Bが生徒Aに対して話す。

※テーマは生徒の自主的判断に任せ、生徒Aと生徒Bで同じでも異なってもかまわない。

【第2ラウンド】

- ・時間を1分減らして制限時間を3分とし、同じペアで、同じテーマについて、第1ラウンドと同様の手順で話す。

※時間が短くなったにもかかわらず、自動化 (automaticity) が起こるため、第1ラウンドよりもスムーズに多くのことを話せるようになる。

【第3ラウンド】

- ・制限時間を2分とし、第1・2ラウンドと同じ活動を行う。

※少なくとも第1ラウンドよりは自然な発話を行うことができるようになるが、3回繰り返すことで退屈してしまう生徒が出てくる場合は、回数や時間を適宜調整する。

「4-3-2 メソッド」では生徒の達成度などを考慮し、以下のように、教員が活動方法を適宜調整することが望まれる。

〈応用1〉 制限時間を変えず、例えば3分に固定して繰り返す。

〈応用2〉 ペアを固定せず、各ラウンドで異なる相手に話す。生徒が20人程度であれば、外側と内側に10人ずつの輪を作り、ラウンドごとに一人ずつずれて話すという手順も可能である。

〈応用3〉 第3ラウンドまで終わり、生徒にある程度自信がついたところで、互いに質疑応答をする。この際、聞き手は質問したいことについてメモをとっておき、相手の話が終わってから質問するように事前に指導しておく必要がある。

〈応用4〉 対話以外でも、音読やライティングなどについて同様の手順が適用できる。例えば、音読では同じ英文について制限時間を変えながら読む、ライティングでは同じテーマについて同じ制限時間内で書くといった活動が可能である。

Part C

■この設問で問うている力

- ③ 事実と意見などを区別して話すことができる。

Here is a statement:

Students in Japan should travel abroad. Do you agree or disagree with this statement? Give one or more reasons why you think so.

You will have one minute to prepare. Then, you will have two minutes to speak.

<60 seconds>

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する。

■得点と割合

観点 4：与えられた問いに対応した適切な内容となっており、論理展開がわかりやすい構成になっている。

観点 5：適切な文法や表現を用いている。

得点	割合
0点	47.8%
1点	30.4%
2点	16.2%
3点	5.6%

得点	割合
0点	54.8%
1点	27.7%
2点	14.0%
3点	3.5%

■分析結果と課題

社会的な話題について、事実と個人の考えや意見とを区別しながら論理的に述べることができるかどうかを測定する設問である。結果は Part B と同様の傾向を示しているが、得点は更に低い。「内容の適切性・論理性」(観点 4) で 0 点は 47.8%、「文法・表現の適切性」(観点 5) で 0 点は 54.8%であり、約半数の生徒が「与えられた問いに対応した内容になっていない、あるいは発話内容が量的にほとんどないか断片的である」、「使える文法や表現は限定的、自分の言葉で話せた内容が 10 数語に満たない」と判定されている。与えられた問いに対応した内容をわかりやすい論理構成で応答できていることを示す観点 4 における 3 点は 5.6%であり、理解に影響しない程度の誤りはあるが、適切な文法・表現を用いて応答できていることを示す観点 5 における 3 点は更に少なく 3.5%である。

Part C の解答結果の特徴の一つは、他の技能との相関が特に高いことである。リーディングの総合得点との相関は観点 4 (内容の適切性・論理性) で $r = .574$ であり、観点 5 (文法・表現の適切性) で $r = .591$ である。また、リスニングとの相関は $r = .559$ (観点 4) と $r = .576$ (観点 5)、ライティングとの相関は $r = .667$ (観点 4) と $r = .677$ (観点 5) である。スピーキングと他の技能との相関は Part A 及び Part B についても認められるが、Part C においては特に顕著である。このことは、スピーキングにおいて高得点である生徒は他の 3 技能においても高得点であることを示しているとともに、ある程度高度な英語運用には、スピーキングだけではなく、リーディング、リスニング、ライティングという他の技能が運用できることが必要であることも意味している。

Part C の結果を質問紙調査の結果と併せて検討すると、Part B と同様に、英語でディベートやディスカッションを行っていたかどうかを示す値と Part C の成績との間には強い正の相関が認められた (観点 4 との相関は $r = .771$ 、観点 5 との相関は $r = .777$)。本調査は生徒が試験官と一対一で質問に答えるという形式で行われたが、ディベートやディスカッションなどの言語活動は一対一で英語を使う力をも育んでいるのではないかと推測される。また、Part A と同様、週末など自由時間に英語に接していることと Part C の成績との間にも正の相関が認められる (観点 4 との相関は $r = .407$ 、観点 5 との相関は $r = .408$)。これは、自主的に英語に触れる機会を通して話す能力が向上していることを示している。さらに、ライティングの総合成績との間にも強い正の相関が認められる (観点 4 との相関 $r = .683$ 、観点 5 との相関 $r = .694$)。このことは、問題の難易度が上がるにつれて、話すことと書くこととの関係が強くなることを示している。

■学習指導に当たって

この設問では、与えられた課題について 60 秒間で自分の考えをまとめ、適切な内容を論

理的に応答する力が求められている。このような能力は、スピーキングを独立した技能として扱うのではなく、聞いたり読んだりした内容について自分の考えをまとめ、それを書くといった作業によって育成することが可能となることは、前述の分析結果が示すとおりである。聞いたり読んだりした英文について、その理解を確認するために英語で発言したり、的確にとらえられていたかどうかを書いて確認したりすることを授業の中で習慣化する必要がある。

また、英語を話す際の論理構成や文法・表現がより適切になるための指導が必要である。そのためには、例えば、ペアやグループで毎時間 30 秒～1 分間のスピーチを行うなど、英語で発話することを習慣づけることによって発話量を増やすと同時に、英語で日記を書く活動を取り入れるなどして英語の質も向上させる指導が必要である。

さらに、生徒質問紙調査において、授業以外で英語に接している生徒が高い得点を取得している傾向があることから、学校の授業だけで完結させるのではなく、校内外で行われるスピーチコンテスト、プレゼンテーション大会、エッセイ大会などへの参加に加え、地域の大学の留学生との交歓会、地域の英文ガイドブックの作成、海外研修など、授業以外の場面で英語に接する機会を拡大していくことが望まれる。

これらのことを踏まえ、例えば、次のような指導が有効であると考えられる。

○Graphic Organizer を使った 4 技能統合によるスピーキング力の養成

英語で話せないという生徒は、そもそも英語で何を話せばいいのかがわからないということがある。そこで、グループでブレインストーミングによって話す内容を提示し合い、それを図式化 (Graphic Organizer) し、最終的に口頭で発表をするという活動が効果的である。

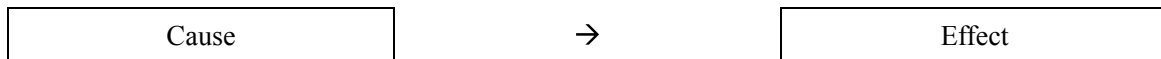
〈活動例〉

理解した英文の内容をグループ内で発表し合う

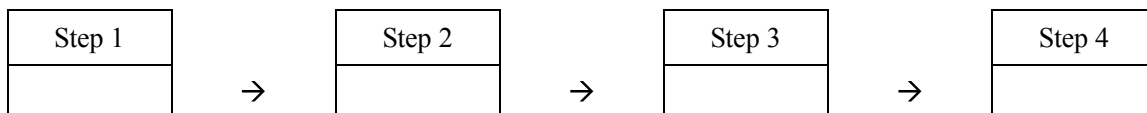
1. 英文内容の図式化

理解した英文について、英文を見ないでその内容を図式化する。できる限り英語で書くことが望ましいが、日本語が混ざっていても教員は訂正しない。本当に理解した内容は長期記憶に保存されていて、長期記憶に記憶された意味内容は、必ずしもオリジナルのままの語彙や文法形式ではなく、自分が使えるレベルの語彙や文で記憶されている。

英文の内容によって適当な図式化の形式は異なるが、例えば、次の図は原因と結果の関係を図式化するための形式である。



あるいは、次のように手順を示す場合もある。



実際には、上記のような整然とした図式になることはまれであろう。その他、樹形図や表などの表現の仕方については、時間を割いて指導しておくことが望ましい。理解したことを自分なりに表現することが目的なので、生徒それぞれが独自の方法で表すことができればよい。

2. グループ活動①

3～4人のグループを作る。(9人の少人数クラスを例としているが、人数が増えても要領は同じである。)

- ・グループ A (生徒 A1、生徒 A2、生徒 A3)
- ・グループ B (生徒 B1、生徒 B2、生徒 B3)
- ・グループ C (生徒 C1、生徒 C2、生徒 C3)

※グループには、できる限り異なる英語力の生徒が混在していることが望ましい。

上記 1 で作成した図を、互いに英語で説明する。他の生徒の説明を聞く際、自分が記載していなかったり理解していなかったりしたことについては、自分の作成した図に書き足すようにする。その際、自分の理解と他の生徒から学んだこととを区別するために、色分けをするよう指示する。

3. グループ活動②

次のように、新たなグループを作る。

- ・グループ 1 (生徒 A1、生徒 B1、生徒 C1)
- ・グループ 2 (生徒 A2、生徒 B2、生徒 C2)
- ・グループ 3 (生徒 A3、生徒 B3、生徒 C3)

新たなグループでは、それぞれの生徒が旧グループの代表として、理解した内容を英語で発表し合う。このような手順を通して、最終的には、各生徒が事前に十分に準備をした

上で、理解した内容を英語で伝えることができるようになる。

〈応用例 1〉

上記の活動では既に理解した英文を発表し合うので、互いに知らない情報や意見を述べ合うという、本来あるべき言語の機能が十分に生かされているとは言えない。言わば、理解を確認するための活動である。一方、同様の手順を取りながらも、生徒に身近な特定の課題を与え、それについてグループ活動①で意見をまとめて図式化し、グループ活動②で発表、最後にクラス全体にグループの代表が発表するという活動に発展させることもできる。

〈応用例 2〉

英文の理解ではなく、絵を使って、言語の理解を介さない練習にすることもできる。

1. グループ活動①

一連の流れを表した 3 枚の絵 (ア) ~ (ウ) (生徒数によって枚数は適宜調整) を準備し、バラバラにした 3 枚の絵を各グループに配る。この際、他のグループの絵を見ないように注意を促す。各グループで、それぞれの絵を説明する準備を行う。

(例)

- ・グループ A (生徒 A1、生徒 A2、生徒 A3) : 絵 (ア) を見て、説明方法を検討する。
- ・グループ B (生徒 B1、生徒 B2、生徒 B3) : 絵 (イ) を見て、説明方法を検討する。
- ・グループ C (生徒 C1、生徒 C2、生徒 C3) : 絵 (ウ) を見て、説明方法を検討する。

2. グループ活動②

次のように、新たなグループを作る。新たなグループでは、グループ活動①における各グループを代表して、それぞれの生徒が旧グループで説明方法を検討した絵を英語で発表する。

- ・グループ 1 (生徒 A1、生徒 B1、生徒 C1)
 - 生徒 A1=絵 (ア) について説明する。
 - 生徒 B1=絵 (イ) について説明する。
 - 生徒 C1=絵 (ウ) について説明する。
- ・グループ 2 (生徒 A2、生徒 B2、生徒 C2)
 - 生徒 A2=絵 (ア) について説明する。
 - 生徒 B2=絵 (イ) について説明する。
 - 生徒 C2=絵 (ウ) について説明する。

- ・グループ 3 (生徒 A3、生徒 B3、生徒 C3)
 - － 生徒 A3＝絵 (ア) について説明する。
 - － 生徒 B3＝絵 (イ) について説明する。
 - － 生徒 C3＝絵 (ウ) について説明する。

上記のグループで 3 人の生徒がそれぞれ絵の内容を伝え、グループでオリジナルの話を再生する。その後、各グループがクラス全体に対してできあがったストーリーを発表する。

6. スピーキングの総合得点について

スピーキングの総合得点を CEFR の枠組みに換算して考察すると、公立学校の全受験者 15,832 人中 14,166 人に当たる 89.5%が A1 レベルと判定されている。また、A2 レベルは 9.5% (1,500 人)、B1 レベルは 1.0% (166 人) である。スピーキングの結果に従って他の 3 技能の成績を考察すると、例外なくどの技能でも A2 レベルは A1 レベルよりも統計的に有意な差を示している。すなわち、スピーキングだけが A1 レベルで他の技能は A2 レベルや B1 レベルという生徒はまれである。同様に、スピーキングの Part C の観点 4 で高得点を示している生徒は、Part C の観点 5、Part B の観点 2・3、Part A の音読においても高得点を得る傾向がある。本調査結果が示す限り、スピーキング能力を向上させるためには、この技能を他の技能と切り離して指導するのではなく、リーディング、リスニングと統合し、更にライティングとも有機的に結び付けた流れの中で指導することが、A1 レベルの生徒を A2 レベルに、A2 レベルの生徒を B1 レベルに伸ばすための要点であると言える。

